

口腔生理学特論・実習

《キーワード》 顎・顔面・口腔領域、三叉 - 自律神経反射、血流調節、唾液分泌

《担当者名》 教授/石井 久淑

【概要】

顎・顔面・口腔領域の諸種の機能（咀嚼、嚥下、発音及び口腔感覚等）を円滑に行うためには、同領域における血流維持や唾液分泌を調節する自律神経系の働きが重要である。このため、本科目ではこれまでに本分野で培われてきた三叉 - 自律神経反射による自律神経反応（血流動態や唾液分泌等）の記録法について理解し、実践できることを目標としている。

【学修目標】

1. 顎・顔面・口腔領域の三叉 - 自律神経反射に関わる末梢性及び中枢性調節機序について説明できる。
2. 神経刺激法（末梢性及び中枢性）について説明・実践することができる。
3. 実験に用いる各種薬剤の作用機序と投与法を説明・実践することができる。
4. 三叉 - 自律神経反射を用いて、顎・顔面・口腔領域の諸器官の血流変化や唾液分泌を測定できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	顎・顔面・口腔領域の三叉-自律神経反射	・三叉 - 自律神経反射の原理と特徴	石井 久淑
2	神経刺激法と薬物の投与法	・末梢及び中枢神経刺激法 ・薬物の全身投与法と脳内局所微量注入法	石井 久淑
3	三叉 - 自律神経反射を用いた生体反応の記録の実際（1）	・三叉 - 自律神経反射を用いた顔面皮膚、咀嚼筋及び唾液腺の血流変化と唾液分泌の記録	石井 久淑
4	三叉 - 自律神経反射を用いた生体反応の記録の実際（2）	・データの処理と解析法	石井 久淑
5	三叉 - 自律神経反射を用いた生体反応の記録の実際（3）	・学会発表及び論文発表にむけてのシミュレーション	石井 久淑

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

事前に提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくことが望ましい。